

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900083		
法人名	営利法人 有限会社 PPKちようしんき		
事業所名	ほほえみの郷 シェア甲子園		
所在地	西宮市甲子園浜田町4-9		
自己評価作成日	令和6年3月11日	評価結果市町村受理日	令和6年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和6年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境で、その方のペースに合わせ、ゆったりとにこやかに生活していただけるように、生活史・生活様式をスタッフが理解して、日々個別ケアに取り組んでいます。また、夜間以外は玄関を開放することで、自由な暮らしを支援するとともに、ご家族様が気軽に来ただけのようにしています。理念をスタッフ内で共有し、ご利用者の言葉の真意をスタッフが代弁できるように努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念と「私たちが大切にしているケア・コミュニケーションの方法」を共有し、利用者個々のライフスタイルやペースに配慮した個別ケアに取り組んでいる。買い物やドライブ外出・地域行事への参加・ボランティアの来訪等を再開し、散歩を日課とする等、利用者が地域とのつながりを持てるよう取り組んでいる。季節行事、食事・おやつレクリエーション、家事参加等、日常生活の中で楽しみや役割が感じられるよう努めている。働きやすい職場環境づくりにより職員体制を整備し、安定した運営・サービスの向上につなげている。運営母体が医療機関であり、主治医・看護師との医療連携体制を整備し、希望に応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者の生活史を学び理解するように努める、尊厳ある”生”を心より支持しその実現に努める、地域の一員としての役割を果たせるように努める、医療と介護が連携し自立を支援する等の理念をスタッフルームに掲示し、また理念を踏まえてカンファレンスを実施し、ケアプランや日々のケアに取り組んでいる。	法人3事業所共通の理念の中に、地域密着型サービスの意義を明文化している。理念を基に、事業所独自の職員の行動規範として「私たちが大切にしているコミュニケーション方法」12項目を策定し、共通理念と行動規範をスタッフルームに掲示し、共有と意識付けに努めている。研修の中で理念・行動規範を共有する機会を設け、スタッフ会議で業務や利用者支援について検討する時は理念に立ち戻り、理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催しに参加する、神社や施設周辺の清掃をすることで日常的に交流を深め、挨拶や世間話をできる関係にある。自治会に加入し、情報交換を行っている。	自治会に加入し、自治会長・民生委員等と地域の情報交換等で協力関係を築いている。日課として、散歩・食材の買い物・事業所周辺の清掃活動等、利用者が地域に出かけたり、地域の人と交流できる多くの機会づくりに努めている。また、年2回、近隣の神社行事への参加を再開している。玉すだれ・大正琴・傾聴等のボランティアの来訪があり、利用者も参加しながら地域と交流している。年2回事業所として地域のクリーン作戦に参加し、介護相談に随時対応する等地域貢献に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームについて地域の方からのご質問があれば、ご説明させていただいている。また、福祉事業所からの相談や見学等も受け付けている。		

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施している。民生委員の方の橋渡しにより、地域の催しへの参加、グループホーム相互の情報提供、交流などサービスの向上に活かしている。避難訓練実施時に民生委員の参加により、アドバイスを頂いている。ご家族代表の視点からの意見を伺い、サービスの向上に繋げている。	利用者・家族代表・地域代表・市からの権利擁護支援者・知見者を構成委員として、2ヶ月に1回、集合開催している。現在は利用者の参加が困難な状況であるが、次回から参加を予定している。会議では、利用者状況・事業所の活動状況等の資料、事故・ヒヤリハット報告書、近況レター等を基に報告し、構成委員と意見・情報交換し議事録を作成している。議事録は、全家族に郵送するとともに玄関にファイルを設置し公開している。	
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、民生委員や地域包括支援センターの職員と意見を交換し、また必要に応じて連絡を取り合っている。運営推進会議議事録や被服費支給申請書等を、法人指導課や厚生課に提出する際に疑問点を伺っている。	市の権利擁護支援者の運営推進会議への参加・集団指導参加(リモート開催)・グループホーム事業者連絡協議会参加再開等を通じて市との連携がある。福祉的支援を必要とする利用者について、法人指導課や厚生課と協働して利用者支援に取り組んでいる。運営推進会議議事録は直接持参し、文書作成等の相談や判断に迷う時があれば、随時、電話・訪問等で市の法人指導課等に問い合わせを行い、適正な運営につなげている。	
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するスタッフの研修を行っている。夜間以外は玄関の施錠はしていない。身体拘束適正委員会を3カ月に1回開催し、ケアカンファレンス、身体拘束をせずに行うケア等議題を盛り込み職員同士の意見交換をおこなう。	「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。令和5年度は、年4回、身体拘束適正化委員会を開催し、「身体拘束をせずに行うケア」等を議題とし、適正化に向けた検討を実施し議事録の回覧により周知を図っている。年間研修計画に沿って、年1回研修を実施し「研修報告」を作成している。研修は資料を基に講義形式で実施し、出席できなかった職員には、資料回覧により周知を図っている。玄関・各フロアの入り口は日中は施錠せず、閉塞感のない暮らしを支援している。	身体拘束適正化委員会の開催時期(3ヶ月に1回)の調整が望まれる。また、「研修報告」に身体拘束適正化委員会の内容が混在しており、身体拘束適正化委員会の位置づけを、議事録等で明確化することが望まれる。

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するスタッフ研修を行っている。事故が起こった場合、事故対策委員会で事故についての検証と再発防止策を話し合い、報告書にまとめて、スタッフで共有するように努めている。	高齢者虐待防止研修についても、上記と同様の方法で年1回実施している。気になる言葉遣いや対応等についても研修にも取り入れ、意識付けを行っている。事故対策委員会で事故原因が不適切ケアに繋がっていないか等を検討する機会を設け、不適切ケアの未然防止につなげている。人員体制の充実・業務負担の軽減・希望休や有給休暇の取得促進等、働きやすい職場環境整備に努め、職員のストレスや不安等がケアに影響しないように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関するスタッフ研修を行っている。成年後見制度を利用されているご利用者がいらっしゃり、実践的に制度を理解している。	成年後見制度について、具体的事例を用いて研修を実施し、理解しやすいよう工夫している。成年後見制度の使用事例があり、利用者状況の報告・金銭管理資料の提供等、制度活用の支援を行っている。今後、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が市と連携して支援を行う体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、質疑応答の時間も設け、理解・納得を図っている。	入居希望・相談があれば自宅訪問や見学対応し、パンフレット・料金表を基にサービス内容・費用等を説明している。契約時には、管理者が契約書・重要事項説明書・同意書・指針・各種書類等を基に、質疑応答時間を設け、十分時間をかけて説明し同意を得ている。特に終末期対応については指針等を基に詳細に説明している。契約内容改定時は、変更内容を明確にした文書を郵送し文書で同意を得ている。	

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族の意見や要望をスタッフ間の申し送りで周知し、また家族会や運営推進会議で議題として取り上げ、運営に反映するように努力している。	1階の面会室や居室での面会を再開している。月1回以上来訪する家族も多く、家族の意見・要望は、面会・電話での近況報告時等に把握に努めている。毎月、利用者担当職員が作成する個別の近況レター・3ユニット合同の写真等を郵送し、利用者個々の近況や行事・生活の様子を伝え、意見・要望が出やすいよう工夫している。家族の意見や要望等があれば、管理者が対応し「申し送りノート」で共有し、個別に対応している。利用者の意見・要望等は日常の会話の中で把握に努め、家族とも相談しながら個別に支援している。運営推進会議に家族の参加があり、事業所や外部者に意見を表す機会を設けている。	
11	(10)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議での話し合いや日々気付いたことの報告等により、素早く意見が反映されている。代表者に随時連絡での対応を行っている。	各フロアで適宜スタッフ会議を実施し、利用者対応・業務等について情報共有や検討を行い、職員の意見・提案を利用者支援や業務等に反映できるよう取り組んでいる。日々の業務の中で検討事項があれば、職員の意見を集約し「申し送りノート」で共有している。管理者が毎月職員の意見を個別に聞く機会を設け、また、法人代表者に職員が気軽に相談できる体制もある。	
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが代表者に気軽に相談できる環境を作っている。又、一人一人の特色を見極め整備に努めている。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ間で研修を行っている。外部研修に参加できるように、情報提供を行っている。		

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や外部研修で知り合った同業者の方と情報交換等を行っている。グループホーム連絡会に参加し、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームの見学やご自宅の訪問をさせていただき、ご本人のお話をお聞きして、要望を叶えられるように努めている。場合によっては、体験入居していただくこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・面接の段階で積極的にお話をお聞きし、場合によっては他の施設等を紹介し、納得した上で入居していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者家族の要望、気持ちを深く聴き取り、必要な時に必要な支援を適切に提供できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念を踏まえ、「介護されている」という気持ちを持たれないような対応を心がけ、できるだけ質問形式で自己決定を促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	計画作成担当者・居室担当者を中心に、積極的にご家族とお話しするように心がけ、ご家族からの意見を聞かせていただき、ケアに反映している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が大切にしてきた馴染みの場所を訪ねたり、生活史を大切にしている。ご家族の来訪時に、少しでも多くご利用者と今の時間を共有していただけるように配慮している。	面会室や居室での面会を再開し、家族・友人・知人の面会があり馴染みの人との関係継続を支援している。電話の取次ぎ等の関係継続も支援している。家族との自宅など馴染みの場所への外出・外泊を支援し、事業所としても個別に馴染みの場所への外出を支援している。	

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、ご利用者同士がコミュニケーションをとりやすいように努めている。他利用者とのコミュニケーションが取りにくい方は、ご利用者と共にスタッフが声をかけて、寂しい思いをされることがないように努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された場合はお見舞いに伺い、ご家族からの相談があれば、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションから入手した情報やご本人の生活を観察し、その方の言葉を深く受け止め、思いや意向を把握し、アセスメントを行い、ケアプランに反映し、ケアに繋げている。	入居時の利用者個々の思いや暮らし方の希望・意向は、家族(または入居前の担当介護支援専門員)が記載する「らいふすたいる」の人生背景史・本人の希望・生活歴欄等の情報から把握している。入居後の会話等から把握した内容は「申し送りノート」で共有している。把握した思いや意向は、介護計画や利用者支援に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、発言・言動等を「ケース記録」「申し送りノート」で共有し、利用者の意向に沿った支援ができるよう取り組んでいる。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に書いていただいた生活史や、ご本人とのコミュニケーションで得た情報を、スタッフ間で共有できるように努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を記録し、気付いたことを申し送り、スタッフ間で共有し、日々の変化に対応できるように努めている。		

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前にサービス担当者会議を行い、ご本人やご家族の意見をお聞きし、ケアに反映するようにしている。毎月モニタリングを行っている。	入居前情報・「らいふすたいる」等をもとに初回の介護計画を作成している。サービスの実施状況を、ケース記録「私の日々の暮らし」、各種チェック表に記録している。ケース記録のファイルに介護計画の2表を綴じて内容の周知を図り、ケース記録の「サービスの実施状況」欄に介護計画の内容を記載し、実施状況を記録できるよう工夫している。スタッフ会議で、利用者個々の状況やケアについて共有や検討を行っている。毎月「モニタリングシート」によるモニタリングを実施し、必要時は随時、定期的には6カ月毎に介護計画の見直しを行っている。見直しの際は、「アセスメントシート」による再アセスメントと「モニタリングシート」のモニタリング・評価を行い、サービス担当者会議を開催し、利用者・家族・計画作成責任者等が参加し検討している。主治医の意見・指示がある場合は、議事録に記載し反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子を記録し、気付いたことを申し送りや管理者に報告し、スタッフ会議で話し合い、計画作成者を中心に介護計画を見直し、ケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化により柔軟にレクや取り組みを行ったり、ご希望による外出に対応している。医療と連携して、通院介助や往診、訪問看護の連絡調整を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加したり、ボランティアに来ていただくことで、楽しみを持って生活していただけるように支援している。		

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医による往診と緊急時の指示を受け、他の医療機関とも連携し、適切な医療を受けられるように支援している。ご家族とご利用者のご希望により、眼科、歯科、皮膚科、整形外科の往診も受けている。</p>	<p>週1回の定期的な内科の訪問診療と訪問看護、希望者への眼科・歯科・皮膚科・整形外科の往診体制がある。他科については外部受診となり、主に職員が受診同行している。訪問診療・往診の記録は「往診表」に、訪問看護の記録は「訪看表」に記録し、特記事項は「申し送りノート」にも記録し共有している。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が週に1回定期訪問し、スタッフと情報交換をしながら、個々のご利用者の体調管理をしている。また、かかりつけ医との連携をし、適切な医療の提供を支援している。</p>	/	
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院関係者やご家族と速やかに情報の共有を行い、早期退院に向けて支援している。スタッフが出来る範囲で面会に伺い、コミュニケーションを図るように心がけている。</p>	<p>入院時は、「介護サマリー」・口頭説明等で情報提供している。入院中は、主として電話で家族・医療連携室等と情報交換し、早期退院に向け支援している。退院前カンファレンスがあれば参加して状況把握し、退院時には「看護サマリー」で情報提供を受け、状況に応じて退院後の介護計画見直しに反映している。入院中の経過や退院時の情報等について、「申し送りノート」で共有し退院後の生活支援に反映している。</p>	
33	(16)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>主治医に状況を報告し、ご家族と話し合い、できる限り良好に支援できるようにスタッフ及び他職種間で方針を話し合っている。</p>	<p>契約時に、重度化や終末期に向けた事業所の方針を「重度化対応指針」を基に説明し、「緊急時の申し合わせ書」で契約時の意向を確認している。重度化を迎えた段階で、主治医が家族に状況説明を行い、意向の再確認を行っている。看取り介護の希望があれば、看取り介護の指針を説明し、看取り介護に向けた介護計画を作成している。終末期における個別のケア手順を居室に掲示し、家族にも説明し共通理解を図っている。主治医・訪問看護師・家族・事業所職員等で連携し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。</p>	

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、スタッフ研修を行い、早期対応をできるように努めている。	/	
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、スタッフ研修を行い、地域の消防署の指導の下、また、民生委員、自治会長の協力の下、訓練を実施している。平成25年4月より、津波避難訓練計画を作成し、防災訓練を年2回行っている。地域住民に避難訓練参加のお声掛けをしている。	年2回、訓練前に消火器の使い方等について研修を実施し、火災時の総合訓練を昼間・夜間想定で可能な利用者も参加して実施している。3月に津波時避難訓練を予定している。訓練では「避難訓練計画書」・「当日の流れ」を作成し、参加できなかった職員にも、研修資料・「当日の流れ」等の回覧により周知を図っている。水・非常食・備品等を各フロアに備蓄し、管理者が管理している。	訓練実施後は、実施記録(火災・津波)を作成し、回覧等により実施状況・実施後の評価・改善点等を共有することが望まれる。BCP作成後は、備蓄リストに沿った備蓄の整備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを作成し、具体的なコミュニケーション方法の事例を挙げ、研修を行い、実践している。個人の価値観、嗜好、習慣を最重要の視点とした、言葉かけや対応を行っている。	「個人情報、プライバシーへの取り組み」「認知症ケア」「倫理及び法令遵守」等の研修で、具体的なコミュニケーション方法の事例を交えて実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。気になる言葉かけや対応があれば、管理者が都度注意喚起するとともに、スタッフ会議等でも周知を図っている。近況レター等への写真掲載は、契約時に文書で同意を得ている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重する気持ちを持ってケアに取り組んでいる。できる限り自己決定をしていただけるように、開かれた質問をするように心がけている。	/	

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったスケジュールで生活していただくのではなく、ご本人のペースで生活していただけるように努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度訪問美容師に来ていただき、カットだけでなくパーマやカラーを楽しまれている。希望される方には、化粧やマニキュアを塗るなどして、女性としての楽しみを感じていただけるようにしている。個人の要望により地域の美容院を利用している。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配を利用しているが、年に数回、お寿司の日や外出の機会を設けている。準備や配膳、片付けなど、できる方ができるペースでスタッフとともにやっている。また、ご利用者の希望がある場合は、ご利用者と買い物に行ったり、希望されるおやつをご用意している。	炊飯と汁物の調理は各フロアで行い、委託業者から届く食事を湯煎して盛り付け提供している。委託業者の献立に季節感や行事食の工夫があり、年に数回出張調理の機会がある。月2～3回程度、事業所で食事レクリエーションの機会を設け、献立に利用者の希望や季節感・行事食を取り入れている。可能な利用者は、日常的に下準備・配膳・片付けや、食事レクリエーション・おやつ作り等に参加できるよう支援している。食事レクリエーションやおやつ作りの様子を、近況レターで家族にも伝えている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の咀嚼・嚥下力に合わせ、ご本人にとって苦ではない水分・食事摂取ができるように工夫し、摂取状況を記録し、把握している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には口腔ケアの声かけや介助を行っている。その方の状態に合わせた方法で口腔ケアを行っている。歯科が積極的に協力や指導をして下さっている。		

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排尿のペースを把握し、トイレ誘導を行っている。また、ご本人の状態に合わせ、スタッフ・ご家族と話し合い、オムツの使用を減らすようにしている。	ほぼ自立からベッド上の介助まで排泄の自立度に個人差が大きい状況である。「排泄チェック表」とケース記録「私の日々の暮らし」で利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄に向け支援している。利用者の排泄支援状況・排泄用品の使用等の検討事項があれば、スタッフ会議で検討し議事録で共有している。日々の検討は当日出勤職員で行い、検討結果は「申し送りノート」で共有しながら現状に適した支援につなげている。羞恥心・プライバシーへの配慮について研修を通じて周知している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の状態に合わせて主治医と連携し、下剤の調整を行っている。また、乳製品の摂取や散歩など、生活面からの支援も行っている。看護師指導のもと便秘予防の体操を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望やタイミングを逃さず、気持ちよく入浴していただけるように工夫している。	入浴曜日は定めていないが、3日に1回の入浴を基本としている。「入浴表」で入浴状況を確認しながら、体調・気分等にも配慮して柔軟に対応している。個浴の一般浴槽で、浴槽の湯を一人ずつ入れ替え、自身のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。利用者の状況に応じて、シャワー浴・二人介助でも対応している。同性介助の希望に対応し、入浴拒否があれば入浴前に散歩する等、個別の配慮で支援している。入浴剤を使用する等、入浴をより楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく安眠できるように、可能な限りご自身のリズムで休んで頂けるように就寝前の状態や気分にも配慮する。日中、その方の状態に応じて、ソファやベッドで過ごしていただいている。		

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ご利用者がどのような薬を服薬しているか、薬剤師の説明のもとスタッフ間で知識の共有をし、服薬確認を二人以上で確認、徹底している。また、日々の変化を主治医に連絡し、医療との連携を図っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食材切り、塗り絵などの工作など、ご本人にあったできることを一緒にしていただいている。歌やゲーム、外出など個別にレクリエーションをしている。個人の要望により、新たな外出先にもチャレンジしている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に合わせて散歩やドライブをしており、定期的に外出の機会を作っている。	天候や利用者の希望に応じて、日課として午前・午後の1日2回、近隣への散歩や毎日の食材の買い物に出かけている。花見・ヨットハーバー・甲子園・公園等に、少人数でのドライブ外出を再開している。また、年2回、近隣の神社行事にも参加している。希望に応じて、家族との外出も再開している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご家族の意向とご本人の希望に応じ、金銭管理が可能な方は管理していただいている。買い物の理髪店等の付き添い援助も行っている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の意向も考慮しながら、ご利用者の希望に応じて、自由に電話を使えるように支援している。また個別に携帯電話を使用されている方もいらっしゃる。		

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方の生活の場であると感じていただけるように環境設定をしている。季節を感じていただけるような飾りなどをして、居心地良く過ごしていただけるように工夫している。	共用空間は広く、加湿器の設置による温湿度管理等、快適で衛生的な環境整備に努めている。テーブル席・ソファ・テレビ等を設置し、動線の確保、相性に配慮した配席の工夫等、利用者が安全に居心地よく過ごせるように取り組んでいる。キッチンが併設され、可能な利用者は食事の下準備・配膳・片付けや、洗濯物干し・洗濯物たため・掃除等の家事に参加し、生活感が感じられるよう支援している。1階・2階の共用空間内に、ひな飾り等季節の作品を飾っている。	今後も、日常生活の中で季節感が感じられる環境づくりの工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやテーブルの位置を工夫し、安心して過ごせる空間作りをした上で、好きな場所で過ごしていただいている。	/	/
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や思い出の品を居室に持って来ていただき、安全に、穏やかに過ごせる配置を工夫している。	各居室は広く、ベッド・クローゼットまたはラックが設置され、テーブル・ソファ・冷蔵庫・家族の写真・仏壇等、使い慣れた家具・馴染みのある物が持ち込まれている。犬の時計やカレンダー・プロ野球チームのグッズ等、趣味のもの・好みのものも飾られ、その人らしさが感じられる。利用者の状況の変化に応じて、家具の配置や福祉用具の導入を家族と相談し、安全に自立した生活が継続できるよう支援している。利用者担当職員が中心となり、家族と連携を図りながら衣替えや環境整備を行っている。	

ほほえみの郷 シェア甲子園

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間は障害が少なくなるように配慮したり、手すりを設置し、段差のある所は個別にサポートしている。また、ご利用者の状態の変化に応じ、ご利用者に常時危険がないか、スタッフ間で話し合い、気をつけている。		